

令和6年度 第1回一関市立藤沢中学校運営支援協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回一関市立藤沢中学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和6年6月24日（月）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関市立藤沢中学校会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 星義弘委員（会長）、櫻井博勝委員（副会長）、鈴木みえ委員（副会長）、吉田浩和委員、千葉英利子委員、千田恵子委員、佐藤聖子委員、小野寺和洋委員
 - (2) 事務局 大川憲一校長、菅野太郎副校長
- 5 議題
 - (1) 授業参観
 - (2) 協議
 - ア 学校運営支援協議会について
 - イ 令和6年度 学校運営の基本方針について
 - ウ その他
 - (3) 情報交換
- 6 公開、非公開の別 議題(2)公開、議題(1)及び(3)非公開
- 7 傍聴者 0人
- 8 議事内容等

協議に先立ち、会長に星義弘委員、副会長に櫻井博勝委員、鈴木みえ委員が互選により選出された。

 - (1) 学校運営支援協議会について
目的と年間計画は資料で提示した通り。
 - (2) 令和6年度 学校運営の基本方針について
資料として配付した学校要覧を校長が説明を行った。“確かな学力の育成”、“特別支援教育の推進”、“健やかな心身の育成”、“豊かな人間性の育成”の4つの目標について重点的に説明を行った。以下、質問及び意見。
委員 発達障害・適応障害の生徒についてどのように対応しているか。
事務局 教職員が簡単に発達障害・適応障害を決めることはできないが、複数の職員
の目を見て、生徒の特性に合わせてどのような支援や手助けができるか意見を
集約して対応している。場合によっては知能検査の受検をすすめ、ICT機器
を活用したり、職員全体で支援の方法を共有したりして対応している。
委員 校長先生が新たに着任したタイミングが学校全体の印象を捉えるよい機会と

思っているが、その印象を踏まえて今年度、どの分野に力を入れたいとお考えか聞かせて欲しい。

校長 個人的に追求しているテーマでもある人権教育について、様々な機会を捉えて学ばせたいと考えている。意識を高めていく機会も作りたい。

キャリア教育の充実について、高校の選択のためだけの学力向上ではなく、自らの将来を意識してがんばれるような生徒を育てたい。

(3) その他 教職員の働き方改革について本校の現状と令和6年度の取組構想、部活動の地域移行を軸に校長が説明した。以下、質問及び意見。

委員 働き方改革で削られた部分、例えば部活動の地域移行などについて地域で引き受けるための準備が整っていないと考えている。高齢化や若年層の減少といった地域の現状を見ると部活動の地域移行は厳しいのではないか。また、生徒の教育の充実は、先生方の安定した体調があってこそであり、管理職として職員の健康管理の部分をどのようにしていこうと考えているか。

校長 部活動の地域移行については一斉に行うのではなく、原則を決めながら地域の指導者や保護者の実情に合わせて、徐々に実施していく方向で動いている。働き方改革の進行については、仕事の分担の見直しを特定の職員に集中しないようにする。また、時間外在校時間の縮減については、個々の職員の取り組み方もあるので、まずは時間外在校時間の目安を示し、職員全体で取り組む方向性を確認することが大事であると考えている。

委員 全国的に教職員の負担軽減策として採点業務や、教職員の事務作業をサポートするような職員が採用されていて時短軽減になっていると聞くが、本校ではどうか。

校長 一関市から学校サポーター2名、適応支援相談員1名の支援を受けており、特別支援教育・適応支援の面で大変助かっている。適応支援相談員については、生徒指導において家庭環境を含めて職員の相談や対象生徒との面談・家庭訪問等を行っていただいております、教職員の大きな支えになっている。

委員 本校の場合、どのような業務内容が過重労働の要因になっていると考えているか。

事務局 これというものはないが、ICT機器の活用を始めとするデジタルトランスフォーメーションの移行期でもあり、様々なものに対応しなければならなくなっていることは事実である。これらが全県的に進行していく中で業務量は減っていくものと考えている。

委員 個人や学校として働き方改革を進めていくことも大切ではあるが、市が特定の業務内容の改善・軽減を図るためのサポーターの配置などを統一して継続的に進めていくことで改善につながっていくものと思う。PTAや校長会等で機

会を捉えて訴えていく必要もあると考えている。

委員 かつて住民自治協議会の取組で、「藤沢の良いものを使って藤沢をPRしてください。」という依頼をしたことがある。生徒たち5、6名が集まり、地域の果樹園で栽培されているリンゴを使ってリンゴパイを作ってはという結論に達した。

生徒がレシピを考案し、地域のパン屋の協力を得て地域づくりフォーラムで生徒たちが販売した。30分も経たずに売り切れとなった。この取組は2年間続き、生徒たちは自発的にシールを作ったり、包装を考えたりするようになり取組が膨らんでいった。その収益の使い道についても自分たちで決めさせたところ、生徒たちは自主的に考え、卒業式で使えるように新しいスリッパを購入した。

そのような過去の取組の実績がある地域である。勉強だけではなく、藤沢という地域の良さも絡めて学校経営に取り組んで欲しい。

9 担当 一関市立藤沢中学校